

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2024年8月～12月
派遣大学名	ガジャマダ大学	所属学部等	農学部

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Traditional Fermented Food of Indonesia	PNM20193122	2	復習をしっかりすればテストは乗り切れると思う。オムニバス形式の講義で、各教員の最終授業回には"Seminar"と題された、講義の内容に基づいたテーマのプレゼンテーション回があり、その際は現地学生との積極的なコミュニケーションが必要になる。
Fishery Biology	PIM20192132	2	個人的には全く学んだことのない分野であったので、復習がとても重要である科目だと思う。スライド内の色などで強調された単語や公式の意味をしっかり理解すればテストは乗り切ることが出来ると思う。
Seed Technology	PNA20192154	3（講義: 2 単位、 Practicum: 1単位）	この科目は Practicum とセットの科目であり講義で学んだ内容と Practicum クラスの内容はリンクしているため、実践的に学ぶことが出来る。講義は、復習をしっかりすれば、中間テストや期末テストは乗り切れると思う。Practicum クラスでは、毎回 Middle Test があるため、予習が重要となる。事前に提示される PDF の内容を押さえれば、高得点が取れると思う。Practicum クラスではレポートが毎回出されるが計画的に進めれば乗り切ることが出来ると思う。
Plant Morphology and Systematics	PNA20192105	3（講義: 2 単位、 Practicum: 1単位）	この科目は Practicum とセットの科目であり講義で学んだ内容と Practicum クラスの内容はリンクしているため、実践的に学ぶことが出来る。講義は、復習

			をしっかりとすれば、中間テストや期末テストは乗り切れると思う。Practicum クラスでは、専用のノートやプリントにレポートの内容を手書きで書きこむ形であり、授業内でその内容を書き込んでおいた方が提出前に楽になるので、ベターであると思う。
--	--	--	--

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00	Traditional						
08:00	Fermented Food of Indonesia						
09:00	Plant	Seed					
10:00	Morphology and Systematics	Technology					
11:00	Fishery						
12:00	Biology						
13:00		Seed					
14:00		Technology					
15:00		Practicum					
16:00					Plant		
17:00					Morphology		
18:00					and		
19:00					Systematics		
20:00					Practicum		
集中講義等							

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他	<input type="radio"/>				
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた	<input type="radio"/>				
シラバスや事前説明に沿って授業が進められましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他	<input type="radio"/>				
その他特筆すべきこと（任意記述）： 講義科目ではプレゼンテーションをする機会がほぼ必ずあった。そのため、プレゼンをするのに慣れる良い機会であると思う。ある科目では、事前に何も予告なく当日にプレゼンをするよう指示されることが一度あった。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他	<input type="radio"/>				
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった					
・寮や宿舎の住み心地	<input type="radio"/>				
・大学の設備（講義室や実験室等）		<input type="radio"/>			
・現地での食事について		<input type="radio"/>			
・休暇を利用した課外活動への参加	<input type="radio"/>				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応		<input type="radio"/>			
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		<input type="radio"/>			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか		<input type="radio"/>			
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか		<input type="radio"/>			
その他特筆すべきこと（任意記述）： UGM があるジョグジャカルタという地域は物価がとても安く、食事は自炊するよりも大学の学食や宿舎の近くのお店でとるか、Gojek や Grab というアプリのフードデリバリーサービスを利用した方が安く済ませられると感じた。ただし、慣れないものを食べてお腹を下しやすい人にとっては自炊は食あたりを防ぐ上で有効であると思う。					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

UGMで履修した科目は“Traditional Fermented Food of Indonesia”、“Plant Morphology and Systematics”、“Fishery Biology”、“Seed Technology”的4科目である。その内の“Plant Morphology and Systematics”と“Seed Technology”的2科目は Practicum(実習)クラスが含まれ、講義以外に実験や課外活動を含む Practicum の活動時間があった。これら4つの科目の中で特に印象的な科目は、“Traditional Fermented Food of Indonesia”と“Plant Morphology and Systematics”である。“Traditional Fermented Food of Indonesia”では、基本的にはインドネシアの発酵食品についての講義が行われ、講義内で学んだ発酵食品やその関連発酵食品についてのプレゼンテーションとディスカッションが行われた。授業内容はとても興味深いもので、初めてインドネシアの伝統的な発酵食品の材料や製造工程について学んだにもかかわらず、私たち留学生の出身国の発酵食品と比較しながら解説されたため理解しやすかった。

“Plant Morphology and Systematics”は Practicum とセットの科目であり、実践的に学習できる科目である。講義とは別の Practicum では、大学内の植物を中心に主に熱帯地域で見られる植物をマテリアルとして時には実際に学内でそれらのマテリアルを見周りながら学び、自分のノートにスケッチや情報をまとめることで植物の形態や系統分類を学ぶことが出来た。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

現地の UGM (ガジャマダ大学) ではできるだけ普段の大学の講義で学んだことのない分野や科目を中心に学ぶことを意識した。茨城大学では主に食品科学とその派生科目について学んできた。食品分野以外を学ぶという意味で、“Fishery Biology”や“Seed Technology”、“Plant Morphology and Systematics”的3つを学んだ。また、食品科学の分野の中でも今まで学んだことのないインドネシアの発酵食品という分野について学びたいと考え、“Traditional Fermented Food of Indonesia”を受講した。どの科目も学んだことのない知識や内容ばかりで有意義な科目であったと感じている。ただし、その中でも“Seed Technology”、“Plant Morphology and Systematics”的ような Practicum(実験や課外活動)を伴う科目が存在し、それらの内容をあまり知らない状態で履修を組むのはリスクがあると思う。Practicum 科目は、科目によって活動内容や日程、課される課題内容、そのハードさがかなり異なるため、それらについて何も知らないまま授業をとると想定よりも課題が多くて苦しむ事や逆に想定よりも活動内容が少ないなどのギャップを感じることがあり、それはリスクがあると考える。そのため、履修を組む前に、特に Practicum 科目について知り合いや先生方にその内容やハードさを必ず尋ねるべきである。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

インドネシアの国民の約 85%がイスラム教徒という事もあり、UGM で知り合った生徒らの大半がイスラム教徒(ムスリム)だった。留学以前は現地でムスリムの方と友達になれるかとても不安があり、あまり心を開いてくれないのでないかという先入観をもっていた。しかし現地に行ってみると会う人達皆友好的で、積極的に話しかけてくれたため安心した。

現地ではインドネシア語学習に積極的にトライし、主に”Duolingo”等の携帯のアプリでインドネシア語の単語やフレーズをインプットして、現地の学生とそれらを使って会話してアウトプットするという形で学習していった。現地の言語で現地の方々に話しかけると、皆笑顔で明るく返事をしてくれ、自分の言葉が伝わるととても学んで良かったという気持ちになった。さらに現地の言葉で話しかけると心を開いてくれてスムーズに会話が進んだ。この経験から敬意をもって現地語で話す事の大切さを見出すことが出来た。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

留学中に身につけた能力として質問する力と適応力が挙げられる。例えば留学中の衣食住で困った事や分からぬ点を現地の友達やバディ、滞在先のオーナーさんなどに尋ねる事で少しづつ現地の暮らしに適応する事が出来た。また、現地語であるインドネシア語を積極的に学び、現地の人々とインドネシア語で会話する事で現地の生活にいち早く慣れようと努力した。このように留学中の日常生活の中で分からぬ事を尋ねる力と新しい物事への適応力を培う事が出来た。これらの力を今後の研究活動や就職活動の際に積極的に尋ねて情報収集を行う場面で活かす事ができると考えている。また、適応力は大学院に進学した時や就職した時などの新しい環境に置かれた際にその環境ならではのルールや必要な知識を学び、適応していくべき場面で活かす事ができると思う。

そして今回の留学を通して得た最大の事は、様々な国や地域、さらには多様な知識や考え方、文化背景をもつ人々と知り合えた事である。出会った他の AIMS の留学生や現地学生などは皆あらゆる事へそれぞれしっかりと考え方をもっており、それぞれのやり方で自身の日々のこと(授業や課題)や将来のことに対して取り組んでいた。そのような様々な人々と知り合ってその考え方や価値観に触れた事で、留学中だけでなく今後も互いに刺激し合いながら、それぞれで目標や夢に向かって前進していくと考える。これは UGM を留学先に選んで、現地で様々な友人を得た自分にしか得られなかつたものだと思う。そのため、今回得た友人やその人たちから得た考え方を大切にして将来の目標に向かって邁進していきたい。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

UGM は総合大学であるため、農学部以外の授業を受ける機会や派遣される農学部以外の他学部の学生と知り合いになれる機会が多いというのが良い点であると思う。

UGM は 18 学部、73 学科から構成されており、授業や課外活動などを通して派遣中に多くの学部の友人を作ることができた。さらに UGM はインドネシアの中でも規模の大きい大学であるため、自分たちの他にも別のプログラムに参加している日本人留学生が多数いた。その留学生によって開かれたイベントの 1 つに日本語クラスがある。そのクラスに自分たちが UGM の学生に対する日本語教師として参加する機会があり、その教室を通して多くの生徒と知り合い、それらの生徒と休日を利用して遊びに行く事が何度かあった。インドネシアにはアニメなどの日本文化を通して日本語に興味をもち、日本語を積極的に学ぼうとする人たちが多い。そのため、すぐに多くの現地の学生と仲良くなれるのが UGM の魅力だと思う。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

UGMは総合大学であるため、多様な文化や価値観に触れたい人におすすめの大学である。また、UGMの学生は留学生に興味をもって積極的に話しかけてくれる印象が強く、授業や課外活動に参加すれば様々な知り合いが必然的にできるといつても過言ではないと思う。私はその中で出会った現地の学生と更なるコミュニケーションを図るために、英語だけでなく現地語のインドネシア語の学習に励んだ。スマホアプリである“Duolingo”や持参したインドネシア語の本などで学んで、現地の友人と学習した言葉を使って会話したり、時には分からぬ言葉を質問したりすることもあった。すると彼らとの会話の幅が広がり、会話が盛り上がった。そのため、UGMで多くの友人を得たい人は留学前にインドネシア語を少しでも学んでおくことをおすすめする。また、留学に行って、現地で他学部と交流できる機会があったら是非参加してみてほしいと思う。想像以上に友達や物事の考え方の幅が広がると思う。

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



↑UGMのField Tripでティープランテーションに訪れた際の写真



↑“Traditional Fermented Food of Indonesia”のクラスでプレゼンテーションで同じグループだった現地学生と撮った写真



↑他の AIMS 留学生と食事に行った際の写真



↑UGM の農学部のスタッフによる AIMS 留学生へのインタビューを受けた際の写真

海外留学報告書（専門科目履修者用）

●基礎情報

学科	地域総合農学科	コース	地域共生コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2024年8月～12月
派遣大学名	ガジャマダ大学	所属学部等	農学部

●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Traditional Fermented Food of Indonesia	PNM20193122	2	インドネシアだけでなく、各国の発酵食品について学べる。プレゼンやオンライン授業が多め。
Plant Morphology and Systematics	PNA20192105	3	形態学を学ぶことが出来る。実習は、毎回手書きの課題が出され、テストも難易度は高めである。
Seed Technology	PNA20192154	3	実習の小テストの難易度が高い。
Annual Crops Cultivation	PNA20193111	3	日本でも学んでいた知識が多く、簡単である。

●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00	Traditional Fermented Food of Indonesia					Organic Farm	
08:00	↓					↓	
09:00	Plant Morphology and Systematics	Seed Technology	Annual Crops Cultivation			↓	
10:00	↓	↓	↓			↓	
11:00	↓	↓	↓			↓	
12:00	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch		Lunch	
13:00		Practicum technology		Japanese class (no credit)		↓	
14:00	Annual crop	↓		↓		↓	

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他	<input type="radio"/>				
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた	<input type="radio"/>				
シラバスや事前説明に沿って授業が進められましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他	<input type="radio"/>				
その他特筆すべきこと（任意記述）： 授業の内容は、日本の大学で学んだことの基礎的な知識を前提に進む授業が多い。 授業内で先生や生徒が用いる英語は、インドネシア語訛りが少しあったものの、どの先生も丁寧に説明してくださいましたため、授業を受けるうえで問題はなかった。 基本的にどの授業もシラバス通りであったが、先生の都合などで急遽変更することもあり、zoom や振替授業を行うこともあった。 課題は、毎週提出するものが多かった。課題形式は、プレゼンやレポートなど授業によって異なる。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他	<input type="radio"/>				
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	<input type="radio"/>				
・大学の設備（講義室や実験室等）	<input type="radio"/>				
・現地での食事について	<input type="radio"/>				
・休暇を利用した課外活動への参加	<input type="radio"/>				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応			<input type="radio"/>		
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	<input type="radio"/>				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	<input type="radio"/>				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	<input type="radio"/>				
その他特筆すべきこと（任意記述）： 体調を崩したのは、中間テストの休み期間だったため、シェアハウスのルームメイトに状況を伝えて、買い物をしてもらったりした。（病院などには行っていない） 周囲の友達は、どの方も親切で分からぬことがあると、すぐに手助けをしてくれた。					

授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

ガジャマダ大学では、Fermented food/ Plant morphology / Seed technology / Annual crop の英語開講の4科目を受講した。

Fermented food は、インドネシアはもちろん、世界の発酵食品について、化学的な視点から分析をして学び、セメスターごとに自分が調べた麴やインドネシアの伝統発酵食品である Tiwul について、歴史や発酵過程などを踏まえてプレゼンを行った。

Plant morphology は、植物形態や植物の分類学について学んだ。実習では、植物採集後にハーバリウムを作成したり、毎週植物のデッサンをして事細かに植物の細部を学んだりした。

Seed technology では、種子の生産、保管、流通などの種子にまつわることを学んだ。毎週の実験では、播種後のポットを観察して、APAスタイルでレポートを提出していた。

Annual crop では、一年生作物の栽培方法や栽培環境について学んだ。インドネシア・韓国・ラオス・フィリピン・日本と同じアジアでも、栽培管理や栽培方法は全く異なることを、授業内のディスカッションを通して学んだ。また、実習では大学付近の農場でトウモロコシをいくつかのプロットを用意して栽培した。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

工夫した点は、留学の4ヶ月前から、毎日英会話レッスンの受講し実践的な英語学習をして留学に備えた。また、挨拶程度のインドネシア語も本で学習をして、渡航した。

授業内では、紙ベースのノートをとって、手を動かし、分からぬことや疑問などは、その授業内で積極的に、質問をしていた。またその日のうちに、学習した内容を振り返りノートにまとめていた。

分からぬ単語は、科目ごとに、マイ単語リストを作成してテスト前に見直した。

また分からぬことは、WhatsAppなどで現地の学生や先生にすぐに質問して、その都度悩みをつぶしていく。

反省点は、インドネシア語の学習のプログラムがなく、インドネシア語を授業で学ぶ機会がなかったことである。また、AIMSの中に、practicum(実験)を、4つ以上受講して課題に追われている学生側いたため、多くても3つまでの取得がよいと考える。

多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

インドネシアは80%以上がイスラム教を占めるイスラム大国である。そのため、普段の生活の中に、お祈りやハラル食品が身近にあった。食生活はもちろん、性格などにも国民性が表れていた。国によって異なり、インドネシア、韓国、ラオス、フィリピン、オーストラリアなど多国籍の方と関わる機会があった。実際に、私もヒジャブを身につけて、ハラル食品を取り、仲間と共に祈りもした。

このように、現地での生活を通して文化や価値観に触れることで、多文化を尊重することはもちろん、自分たちの文化についても考えるきっかけになり、自分のアイデンティティを見直すことに繋がった。日本の文化については、生まれた時から接してきて、当たり前であるため、懐疑的に見ることはなかつたが、インドネシアや他の国の文化に触れることで、改めて日本の文化や自分たちの価値観や考え方について考えるようになった。

留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

私は今回の留学経験を以下のことにつき生かして、人生をあゆんでいく。

①奄美大島での農業インターンシップ

実際に、熱帯気候のインドネシアで学んだ農業形態を、生かしてインターンシップを行う。具体的には、蝸牛やパパイヤを用いた有機肥料の作り方である。自分が学んだことを日本でも実践し、それぞれの国の良さを取り入れていく。

②国際的な視野を持って生きる

今までの交友関係は、国内の同じ年齢層が多かったが、留学を経て国籍や性別、年齢を超えて、様々な方と出会い、対話をさせて頂いた。今までにはなかった発想や考え方出会い、自分とも向き合う機会になった。今後も様々な方との交流を重ねて、価値観を広げて人生に多くの選択肢を残していく。

③日本の文化をさらに学ぶ

インドネシアに行くことで、自分が日本人であり、日本の代表として接していくことが多かった。今後、国際的な仕事などをしていく際には、英語力も必要だが、それと同時に日本文化や歴史など、日本人として日本のこと学び伝えていく。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

ガジャマダ大学は、総合大学のため、農学だけにとどまらず交流や学びを得たい方には、ぜひお勧め。また、イベントが毎週のようにある為、自分の勉強の進捗状況と照らし合わせて、参加することを強く勧める。更に、農学部の学生との交流だけではもったいないので、他学部はもちろん、インドネシアの方だけでなく、他の国から来ている留学生との交流も大切にしてほしい。

先生や先輩は、親切で優しいので、分からぬ事があれば、すぐに WhatsApp を用いて、どんな些細な疑問もすぐに解消することが大切。

インドネシア語の授業はないため、日本語クラスに参加してインドネシア語を学ぶか、独学で学ぶことを推奨する。（但し、授業は英語開講なので、インドネシア語習得は強制ではない。話せれば、なおよい。）

留学の様子がわかる写真（良い写真を2枚程度）



Fermented food

クラスの集合写真



それぞれの国の料理(インドネシア・ラオス・韓国・フィリピン・日本)



Ani先生のお宅に招かれた際の写真



Nasi pecel の写真

ピーナッツソースに、蒸し野菜とフライドチキンが載っている、インドネシアのジャワ料理。



Body と留学生の集合写真